

築人 KIZUKU

広報誌

2016年度 公益社団法人 水沢青年会議所

新年初顔合わせ

式次第

1. 開会宣言
2. 国際並びにJCソング斉唱
3. JCIワールド略和
4. JCIのつどいからJCIのつどいへ
5. JCI宣言文朗読並びに副会長和
6. 東北JC宣言略和
7. 道の理事長挨拶
8. 感謝状贈呈
9. 理事長挨拶
10. 新年度・OB紹介
11. 新役員紹介
12. 新年度挨拶
13. 祝電並びに労志紹介
14. 出陣者紹介
15. 新入会員紹介
16. 若い我ら
17. 中締め
18. 閉会宣言

美化
客館
室品

2
2016
February
No.620

2016年度スローガン

「今」を駆け抜けよう!
～燦然と輝く笑顔溢れる未来を目指して～



ウェブマガジン奥州ライフ
編集長

公益社団法人水沢青年会議所
理事長

公益社団法人水沢青年会議所
まちづくり委員会 委員長

川島佳輔 × 浅間光将 × 安藤正明

まちづくり
対談

『奥州市を活性化させる“まちづくり”とは』

—はじめにこれまで青年会議所との関わりがありましたらお聞かせください。

川島 江刺JCさんとは年末にポスターを依頼されてデザインをお手伝いさせていただきました。水沢JCさんには機会がありませんでした。

浅間 青年会議所の活動内容についてはいかがでしょうか？

川島 恥ずかしながらそういった活動には参加してこなかったのですが、深く知る機会はありませんでしたが、小さいころから知っているインディアン旗野球大会が水沢JCさんの活動であることを知りました。自然とまちのなかに溶け込んでいるというのがすごくいいと思います。

—川島さんは『奥州ライフ』を立ち上げ、より良い“まちづくり”に向けて色々とお活動されており、我々青年会議所も“まちづくり”をテーマとした事業を行っています。川島さんの考える奥州市の“みりょく”とは何でしょうか？

川島 いくつかあると思いますが、“ものづくり”のまちではないかと思っています。最近は減りつつも、自分たちは“ものづくり”としてやっていこうという人たちが増えてきています。小商いを大切にできるまちというのが一番の“みりょく”なのかなあと。人が優しいとか、人が良いというのほどどこでも言われていると思いますが、他所の人と触れ合うことがあると、やっぱり「奥州市の人たちはいいな」と感じます。

浅間 水沢青年会議所は、「明るい豊かな社会を築き上げる」というテーマのもと、奥州市へのどのぐらい寄与できるのか、今の時代何ができるのかということを考えてながら活動しています。人が来てもらえるまち、住んでいる人たちにまちに誇りをもってもらえる、といったような方向性を考えています。川島さんの、商いのまちというのは今まであまりなかった発想でなかなか面白いですね。

安藤 海外や企業勤務を経験されて、なぜ地元に戻ってこようと思われたのですか？

川島 一番は私にとって故郷と言えるところがここしかありませんでした。40歳50歳になって戻ってきてつまらないなあと感じてしまったら、そこからアクションを起こしてもやれることは限られると思いました。それなら10年20年早く戻ってきて、何ができるかわからないけど、自分たちが10年20年経った時に楽しいまち・自分たちが暮らしやすいまちに変えられるのではないかと思います。よそのまちで楽しいのもいいけど、自分たちのまちが盛り下がって

いるのは見ていて残念。

安藤 50歳60歳になってから行動に移すととなると難しいでしょうね。ホームページにあるように、地元を離れ遠くの町で暮らす人たちがいつか奥州市に戻ってきたくるよう発信しているんですね。『奥州ライフ』は人に焦点を当てて発信されており、小さな商人さんの魅力や楽しさが伝わってきます。

—川島さんの描いている“まちづくり”とは何でしょうか？

川島 前職はWebを使ったプロモーションをする仕事でした。私ができることは情報発信や編集をまちに還元することだと思い、立ち上げたのが『奥州ライフ』です。お店に行っても楽しいのは勿論ですが、お店の方たちの想いも取り上げていくことが必要であり、そこが価値であると思います。モノやお金の価値だけであれば、全国展開しているチェーン店しか残れなくなってしまいます。

安藤 まちづくり委員会として事業をやっていくにあたり、私たちが若い世代の人たちを巻き込んでやっていきたいと考えています。まちの停滞感を壊していきたい。

川島 私は、皆で協力してというのは“まちづくり”で優先すべきことでは無いと思っています。一般的には、皆でやるのが正しい“まちづくり”と言われますが、まずは自分がやれることを始めることが結果として周りを巻き込んでいくということになるのではないかと思います。足並みを揃えて全員が同じ方向へ向かうのは大変。例えば、日曜日に家の近くに行けるパン屋さんがあって、途中でフラットと寄れるコーヒー屋さんがあって、といった小さなことでいいので奥州市民一人ひとりが楽しく暮らせるのが“まちづくり”であると思います。

安藤 人が考えていること・価値観はそれぞれ違いますよね。それぞれにとって好きなことがあれば、それぞれにとっていいまちとなりますね。

川島 栄えていた時の商店街は、まさにそういうことだったのだと思います。それぞれができることが集まって一つの通りになったことが賑わいとなったのではないのでしょうか。今の商店街でも個人個人で楽しめる人たちが集まれば自然にコミュニティが出来ると思います。機械的に作り上げられるものではありません。

安藤 私たちまちづくり委員会では、若者を対象とする場合は若者の目線が重要だと考えています。商品であれば消費者目線でなければ売れない。現状、行政の作りたいまちと市民が住みたいまちの目線が合っていないのではないで

しょうか。関心がある人は自分から参加すると思うのですが、意見は持っていないでも表に出せない人が思い描いているものにも私は興味があります。

川島 おそらく声を発する人というのは一握りであると思います。参加されない人たちの声を集めるというのが課題で、私も出来ていません。主催者側と参加者側で壁を作らない関係を作れることが一番良いと思います。私はWeb発信がメインで、リアルな部分での活動では大きな成果を残せていません。そういう点では水沢JCさんは市内で主力として活動されている人たちが集まっている組織なので、大きな分母の人たちを先導して動かしてもらえれば私たちのような小さな組織も動けるようになるのではないかと思います。

浅間 難しい部分で、もっとよくしたいから活動している方と生活できている現状に満足している方がおり、どちらを対象とするかで考え方が変わってくると思います。

川島 私もそれは悩んでいるところで、今は市内の空き家をどうにかしたいと考えているのですが、例えばまちの商店街だとシャッターが閉まっても生活が成り立っていて現状に満足している人たちに行動してもらうにはすごくエネルギーが要りますよね。そこを動かすには時間がかかるので、何かをしたいと思っている人たちが先頭を切って何かやってみせて、自分もやってみたいと思う人が出てきたら巻き込んでいくのがいいのかなあとと思います。

浅間 切羽詰ってからでない行政も何も言わない。都会では保育園に入れないから仕事ができないうことがあっても、こちらでは保育園に入れるし、家で誰かが面倒見てくれたりもします。現状変わらなくてもいい、と思ってしまふ。10年後20年後、子供たちが成長したときに住むまちであり、もっとよくしていきたい。自分が満足しているだけで良いのかと思います。同級生と話していて、「忙しいのに何でそんなこと（JC活動）をやっているの？」と聞かれることもあります。

川島 JCさんはボランティアというか、会費を払って活動されていますよね。まちに投資している人たちはすごいと思います。私は自分と家族の生活を守ることぐらいしかできないので。子供が過ごすまちはこのままでいいのか、子供がこのまちはつまらない、と言ったらそれは私たちの責任なのかなあとと思います。次の世代に渡すときは今より良い状態が渡すことが役目であると思います。県内でも花巻市や紫波町で色んなことに取り組まれている。私は他の市町村でリノベーションによるまちづくりを学んでいます。奥州市でも出来ないことはない。外の活動を自分たちのまちに持ち帰ることがこれから大事になってきます。

—私たち青年会議所のような団体に求める“まちづくり”とは？

川島 JCさんのような社会的信用がある大きな団体と地元で動く個人とが連携し、それぞれの得意分野を活かす関わり方がよいのではないかと思います。出来るだけ日常的な活動にも大きな団体関わってきてもらえると行政に対する声の重みも変わってくると思います。

安藤 連携については浅間理事長の所信にもあり、まちづくり委員会はそれを受けてまちの発展や賑わいを取り戻すためにやっていきたいと思っています。

浅間 どのように連携をするかについては昨年12月半ばぐらいに達増知事と意見交換をする機会があり、各地で活動・活躍している団体との情報共有をしたいのでネットワークを構築した情報発信をもっとしてほしいという要望を出しております。また『奥州ライフ』が継続的に情報発信し、その記事によって評価が高まり、理解が深まれば奥州市の良さがどんどん伝わるのではないかと思います。

—より良い“まちづくり”のために取り組んでいることはありますか？

川島 行政の課題は、まちを魅力的に発信することに苦手意識があるところ。そういうところに民間のデザイナーが関わっていくことでまちを魅力的に映すことが大事である

と思っています。まだ発行になっていませんが企画・製作した奥州市の冊子“RELIFE”があります。この冊子のデザインや発信する中身、設置配布場所に至るまで、私たち奥州ライフが企画しています。今まで行政が発行してきた冊子とは毛色が違いますし、このような冊子を行政が発行というのは他の市町村にも影響があると思います。掲載している中身はまちの人が知っている場所であり、見方によって変わることを知ってもらいたい。Webだけでなくデザインや撮影の技術をまちに活かしていこうというのがこれからやりたいことです。市の担当の方も、行政がこんな民間っぽいものを出すのは抵抗があったのではないかと思います。今回は内部でも調整していただきました。私たちが載せたいものやデザインでやらせていただけて感謝しています。こういうことを続けて人が集まってくれば情報発信がこれから重要になることをわかってもらうきっかけになる。県単位では秋田県がこういう冊子を作っていますが市町村単位では珍しいこと。2号も出せたらいいねと奥州市と話しているところです。

安藤 これは今までの行政が発行するパンフレットとは全然違いますね。このまちに帰ってきたときや移り住むときにどういう日常生活になるのかなということが感じられます。川島さんが奥州市の“みりょく”を増すためにやっている活動はまさにこの“RELIFE”の発行なんですね。

川島 外にいる人にはわからないことを少しずつ伝えていくというのが課題であり必要なことであると思います。これを見て一人でも奥州市に来てもらえたら嬉しいですね。

浅間 奥州市に関わらず、各市町村それぞれの歴史ある建造物とか載せてPRしますが、それは1回見たらいいとなってしまう。“RELIFE”は、自分がこのまちに住んだら、というイメージがし易いですね。

川島 観光よりも日常目線に重点を置いて製作しています。このまちの人も外の人も楽しめる内容になっていると思います。配布先は行政の施設は勿論、県内と都市圏合わせて400カ所、喫茶店や飲食店のように座ってゆっくり出来る場所にしたいと思っています。発行部数は1万部です。これを継続的に続けていけば奥州市のことが頭の中に自然と入り込んでいくようになるのではないかと思います。表紙も拘ってしまして、自分の家の隣のリンゴ畑なんです。まちの人が気付いていない良い場所は奥州市にまだまだあります。よそのが1つの重要な要素になってくると思います。

浅間 これは川島さんが海外一人旅や前職での経験があってこそこういった場所が探せるのではないかと思います。そこが見えない価値であり、見える化して発信していくことが1つの戦略だと思います。

—最後に、川島さんから市民の皆様に向けてのメッセージをお願いします。

川島 奥州市民一人ひとりが奥州市に力を貸してあげてほしいと思います。誰しもがまちに対して他人事な感じがあると思うので、行政に振り回されることなく、主役とはいかないまでも自分主導で動いて良いと思います。自分のやりたい事とか興味のある事とかまちに対して起こしていくことが“まちづくり”に必要なことになってくるのだと思います。

—“まちづくり”と一言で言ってもその目的や手法は実に様々であり、協力し合うことでシナジーを生み、より良いまちを創り上げることになるのだと思います。どうもありがとうございました。



川島 佳輔（かわしま・けいすけ）

21歳で世界一周の旅へ。約35ヶ国を旅してその国の日常を体験。帰国後は企業の販売促進等を担当し2014年に奥州市へUターン。フリーランスとして活動を開始。ウェブマガジン「OSHU LIFE」編集長。
<http://oshulife.com/>

Junior Chamber International Mizusawa

水沢JC説明会



平成28年1月26日(火)奥州市民活動支援センター(メイプル地下)で、本年初の水沢JC説明会が行われました。当日は2名の入会候補者の方にお越しいただき、多数の現役会員も出席いたしました。本年も毎月1回の開催を予定しております。

この説明会では、水沢青年会議所の組織構成、活動内容、目的など、わかりやすく説明しておりますので、青年会議所をご存じない方にも、ご理解いただくことができる機会ではないかと考えております。

本年初の説明会は、2016年度第54代理事長浅間光将君より過去のJC活動や、普段から大切にしている事や考え方など、自己啓発にも繋がるような話がありました。

会員一人一人の力が、水沢青年会議所の構成に大きく関与しています。「三人寄れば文殊の知恵」ということわざがあるように、一人では解決できないことも、志を同じくする仲間が知恵を出し合うことにより、新たな見方ができ、大きく発展する可能性があります。そして、そこには絆が生まれます。

自分自身の成長が、周りの人々に影響を与え、まちがより良くなる、プラスの連鎖で、自分自身の経験という財産も増えて行きます。青年会議所に少しでも興味をお持ちの方、また、話だけでも聞いてみたいと思っている方がいらっしゃいましたら、ご遠慮なくご連絡をいただきたいと思います。心よりお待ちしております。



お問合せ電話番号 0197-24-2641

水沢JC説明会 参加者大募集

日 2月23日(火) 会場 奥州市民活動支援センター(メイプル地下)
時 午後7時~

会員募集

水沢青年会議所の仲間に入りませんか?

地域の青年のみならず！他業種の、それも同年代の人々と幅広く勉強し、一緒に行動し、そして友情の輪を広げてみませんか？そうした事の出来る団体が、青年会議所です。40歳までをどう過ごすか、共に考え活動していきましょう！

修練・奉仕・友情を信条とし、よりよい社会づくりを目指す。

青年会議所は大きな可能性に向けての自己投資です

Next event Schedule

〈今後のスケジュール〉

2月 (Feb)

14日(日)

2月例会 家族懇親会
会場 水沢グランドホテル
担当 三役

23日(火)

水沢JC説明会
会場 奥州市民活動支援センター

3月 (Mar)

11日(金)

3月例会
2017年度東北青年フォーラム
準備セミナーvol.1
会場 翠明荘
担当 フォーラム準備室

編集後記

相変わらず寒い日々が続いております。雪不足も心配されておりましたが、冬らしい景色を見る機会も本当に多くなりました。先日機会がありましてお隣韓国へ出かけました。一言でいうと寒い。こちらの雪の降るような寒さとは違い、からっと晴れて風が吹き乾燥した寒さです。なんとカメラが寒さで動かなくなる程。メガネの周りには霜柱のようなものが...そんな貴重な体験をさせて頂きました。ちなみにキムチに含まれる乳酸菌が体に良いらしく中国の管様に人気だとか。ピリッと辛みの間いた鍋などを食べ元気に乗り切りたいものであります。それでは風邪などひかれませぬ様ご自愛下さい。

副理事長
高橋 幸博

表紙写真 2016年度 新年初顔合わせ
「料亭丸松にて」

みなさまのご意見・ご感想をお待ちしております！

〒023-0818 奥州市水沢区東町4 (水沢商工会館3F) TEL 0197-24-2641 FAX 0197-22-6421
ホームページ <http://www.229jc.jp> E-mail: room@229jc.jp